

- ◆ 端境期対策として新たな品目・作型の提案
- ◆ 赤色防虫ネットによるアザミウマ類の防除対策
 - ◆ 共同直売所の端境期品目の対策 ～販売データの分析から～
 - ◆ 直売野菜の品目拡大 ～にぎわいあふれる農産物直売所づくりに向けて～
 - ◆ 都内で栽培されている主要野菜品種の動向
 - ◆ 園芸施設共済の制度拡充 ～さらに安心のネットワークへ～
 - ◆ 一口メモ：「小松菜パン」が学校給食に
 - ◆ 一口メモ：良質米生産に向けた地域の取組
 - ◆ お知らせ



中央農業改良
普及センター

端境期対策として 新たな品目・作型の提案

世田谷区は、庭先や区内2ヶ所の共同直売所を活用した直売経営が盛んな地域です。しかし、盛夏や厳冬期は出荷品目が少なく、特に1～4月は最も品薄の時期にあたり、品揃え対策が求められていました。

このため、普及センターは端境期の解消に向け、区内の生産組織の協力のもと展示ほを設け、新たな品目や作型の提案を行っています。

四川アーサイ（子持ちタカナ）

1株が4～5kgとなる大型のタカナで、葉茎基部につく腋芽を収穫します。コリコリとした食感で、炒め物やスープなどに利用します。

9月上旬に播種し、本葉4～5枚の苗を10月中旬に9245のマルチを使って定植します。

平成25年には露地栽培で検討を行い、3月下旬～4月下旬に収穫することができました。

露地栽培では、腋芽や葉の先に凍害が発生しやすいため、10℃以下になったらベタ掛けやトンネル被覆が必要です。

平成26年に実施した施設栽培では、凍害の発生も無く、1月下旬～3月中旬まで継続的な収穫ができました。販売は、腋芽を数個（250～300g）袋詰めにし、250円で販売したところ好調な売れ行きとなりました（写真1）。



写真1 脇芽の着生状況と販売形態

アーサイは、日本では馴染みのない野菜のため、販売時には食べ方をPOP等でPRする必要

があります（写真2）。食感が良く、芽キャベツのように調理も簡単なため、比較的若い世代に好評でリピーターも期待できそうです。

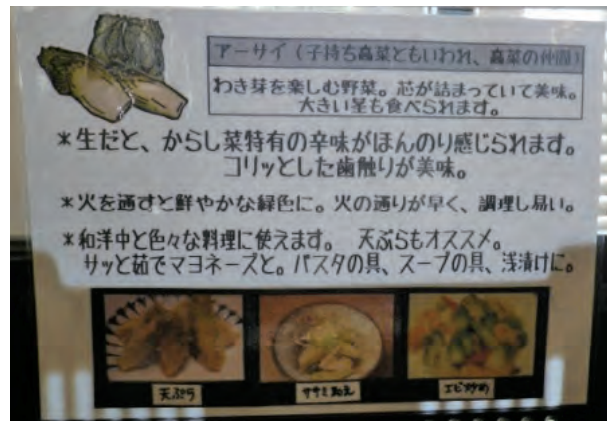


写真2 アーサイはPOPを使ってPR

4月穫りブロッコリー

東京都農林総合研究センターで技術開発が図られ、各地で試作が進められる作型です。

12月中旬に播種し、無加温のハウスで育苗後、2月中旬に2重のトンネル被覆で定植すると、4月下旬～5月上旬に収穫期を迎えます。

世田谷区では平成24年から試作を開始し、26年の展示ほでは、「ウィンベル」と「グランドーム」の2品種の比較を行いました。

4月下旬から「ウィンベル」の収穫が始まり、その後「グランドーム」の収穫となりました。両品種とも1個250円で販売しましたが、食味も良く、直売所では好調な売れ行きでした。

本作型は収穫適期が短いため、販売量に合わせた生産が重要です。また、被覆は不可欠ですが、農薬散布が殆ど無いという利点もあります。

今後の取組

普及センターではこの他、3月穫りのタマネギや、抑制栽培のエダマメ及びキュウリ等についても、管内生産者の協力のもと検討を進め、端境期の解消に向けた取組を進めています。

中央農業改良
普及センター

赤色防虫ネットによる アザミウマ類の防除対策

例年、気温の上昇と共に農産物への害虫被害が目立ってきます。特に、今年の5～6月は例年にならぬほど高温の日が続き、害虫の発生が早まり、多発傾向となりました。中でもアザミウマ類の発生が極めて多く、コマツナのシルバリング症状（写真）やハウレンソウの萎縮症状が多く見られました。



写真 アザミウマ類による被害（コマツナ）

普及センターでは、多くの農家が悩まされているアザミウマ類による被害の対策として、赤色防虫ネットを用いた展示ほを設置し、その防除効果について確認しました。

赤色防虫ネットとは

赤色防虫ネット（商品名：サンサンネットe-レッド）は、赤いPE糸で織り込んだ防虫ネットです。アザミウマ類にとっては赤色ネットの中は暗く見え、内部を認識できないために防虫効果があると言われていています。今回は、色や目合いの異なる3種類のサンサンネットの侵入抑制効果を比較しました（表）。

表 使用したサンサンネットの種類

区の設定	ネットの色	透光率
e-レッド 0.8mm目合い	赤	約75%
e-レッド 0.6mm目合い	赤	約70%
ソフライト 0.6mm目合い	白	約87%

アザミウマ類の侵入抑制効果

これらのサンサンネットを用いて、5月下旬播種のコマツナにて播種時からトンネル被覆を行いました。トンネル内部に青色粘着板を設置し、捕獲したアザミウマ類の頭数を図に示しま

した。なお、肥培管理や農薬散布は農家の慣行により行いました。

その結果、「無被覆」の捕獲頭数を100%とすると、「ソフライト0.6mm目合い」で33%、「e-レッド0.8mm目合い」で9%、「e-レッド0.6mm目合い」で7%に減少していました。同じ0.6mm目合いで比べると、「e-レッド」では「ソフライト」の約5分の1にまで減少しました。この結果から、「e-レッド」のトンネル被覆によるアザミウマ類の侵入抑制効果が極めて高いことが確認できました。

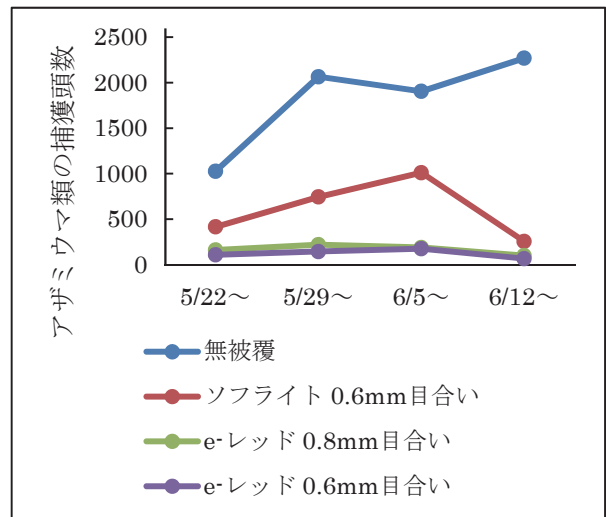


図 青色粘着板で捕獲したアザミウマ類の頭数

アザミウマ類の防除は複合的に！

今回の展示ほでは3種類のサンサンネットのいずれにおいても、コマツナに対するアザミウマ類の被害は確認できませんでした。それは、農家による農薬散布が効果的だったからと推測できます。また、アザミウマ類の防除のためには、圃場周辺の雑草の除去や残渣の撤去なども必要な対策です。

このような難防除害虫と言われるアザミウマ類に対して、効果的な農薬や資材等を組み合わせた複合的な防除対策を講じて、農産物の安定生産を実現しましょう！

西多摩農業改良
普及センター

共同直売所の端境期品目の対策

～販売データの分析から～

年間を通して地域の旬の野菜が並ぶ直売所では、消費者のニーズも多様化しています。そうしたなか、直売所では生産・販売拡大に取り組んでいますが、売上は伸び悩んでいます。販売データを分析したところ、需要があるのに供給されず、販売のチャンスを逃している品目があることがわかりました。そこで、普及センターではその端境期対策を行いました。

端境期対策について

普及センターはJAにしたま管内4か所の直売所販売データから、販売品目、販売額、出荷時期など特徴を把握・分析し、端境期対策の講習会や情報提供を行っています。今回は収穫後に鮮度が落ちやすく直売に向くスイートコーンとエダマメを取り上げました。東京都中央卸売市場の取扱金額を参照し、6月上旬どりスイートコーン、8、9月どりエダマメの消費が見込まれると考えられました（図1、2）。

普及センターの取組例

（スイートコーン）密閉トンネル栽培で6月上旬どりの栽培に取り組みました（表、写真）。3月下旬の寒さで凍害を受けた株が少し見られましたが、その後の生育は順調に進みました。1本180円で直売所に並び、売れ行きは好調でした。

表 栽培概要

2月28日	1穴2粒直播、農ポリトンネル被覆 生分解性マルチ9235使用
3月25日	トンネル換気1回目 その後、2週間毎に段階的に換気
4月30日	間引き
5月14日	トンネル除去
6月2日	収穫開始



写真 換気終了後の様子

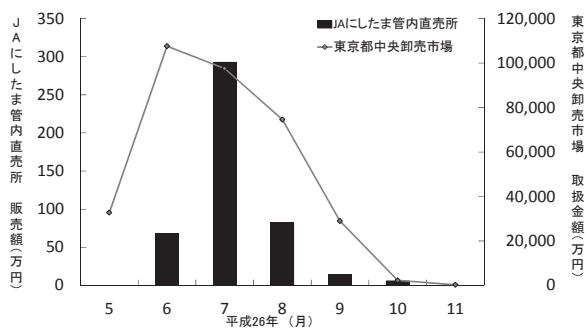


図1 スイートコーン販売額

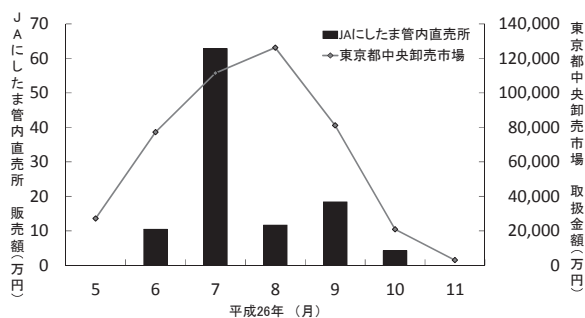


図2 エダマメ販売額

（エダマメ）消費が見込まれる8、9月の収穫に向け、「湯あがり娘」、「茨音」、「いきなまる」の3品種で比較栽培を行いました。白黒マルチと防虫ネットを使用し、6月1日播種の8月6日収穫及び6月17日播種の8月20日収穫の作型を検討しました。販売量が少ない時期のため、すぐに売切れとなる人気でした。

魅力ある直売所づくりに向けて

普及センターでは、今後も販売データ分析を行い、出荷品目拡大や端境期対策として新作型の展示ほを継続的に設置し、端境期対策マニュアルの作成を進めています。講習会や現地巡回の場で情報提供を行い、魅力ある直売所づくりに向けて支援していきます。

南多摩農業改良
普及センター

直売野菜の品目拡大

～にぎわいあふれる農産物直売所づくりに向けて～

多摩市と稲城市では、直売所の地場産野菜は近隣住民に大変好評です。一方では、出荷品目をもっと増やしたいという生産者の声が増えています。そこで、平成26～27年度、普及センターは生産者と共に品目拡大を目的とした野菜試作を行いました。

目を見張る大きさ～大莢ラッカセイ～

- ・栽培品種：「おおまさり」（写真1）
- ・栽培概要：播種は平成26年5月15日、収穫は9月下旬。うね間70cm・株間50cm・1条播きでした。上物収穫物は8～13gの莢が全体の51%を占め、下物収穫物は莢が小さくなるほど増えました（図）。

直売所では、「迫力ある大きさに驚いた、食べごたえがありそう」と大変好評でした。



写真1 「おおまさり」（左）と通常のラッカセイ（右）

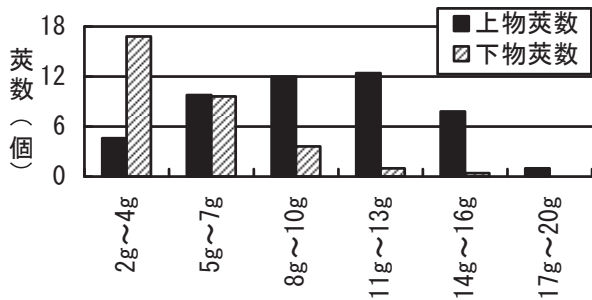


図 莢重別の莢数（1株）

サラダの彩り～紫ミズナ～

- ・栽培品種：「紅法師」（写真2）
- ・栽培概要：播種は平成26年8月21日、収穫は9月下旬～10月上旬。うね幅70cm・株間5cm・条間15cm・6条で、紫色の発色には光が必要のため株間を広くし、大株は筋っぽくなるので草丈30cmになる前に収穫しました。

直売所では、「鮮やかな色をサラダの彩りに使いたい」という声が多く聞かれました。



写真2 「紅法師」栽培の様子

手頃な大きさ～ミニカラーピーマン～

- ・栽培品種：「ぶちピー」（写真3）
- ・栽培概要：定植は平成27年4月27日、収穫は5月中旬～。うね間70cm・株間40cmで、収穫物は果実が小さく（表）、販売時に量目や色の組み合わせに幅ができました。

直売所では、「大きさも手頃で様々な料理に使いたい」という声が多く聞かれました。



写真3 「ぶちピー」の着果の様子

表 収穫物の品質

果色	1果重(g)	果実長(mm)	果実径(mm)	糖度(Brix%)
赤	20.8	66.0	34.5	11.2
オレンジ	22.6	61.8	38.4	8.4
黄	22.5	62.0	33.7	7.2

調査日：H27/7/30

農産物直売所の振興のために

今後も普及センターは出荷品目の拡大や端境期対策に取り組み、消費者に親しまれる農産物直売所づくりのお手伝いをしていきます。

農業振興事務所
振興課
技術総合調整係

都内で栽培されている 主要野菜品種の動向

野菜を栽培するうえで生産者が大変重要と考
えているのが品種です。それは、品種によって
収量や品質が左右されるだけでなく、販売や収
益にも影響するからです。

そこで、都内で栽培されている主要野菜の品
種動向を把握するため、普及センターの協力を
得てとりまとめましたので、ご紹介します(表)。

栽培品種の動向

トマトは「桃太郎ファイト」をはじめ桃太郎
系の品種が多い傾向です。近年、端境期対策で
抑制栽培が導入され、トマト黄化葉巻病耐病性
品種でも「桃太郎ピース」が使用されています。
キュウリの抑制栽培では収量性の良い「ズバリ
163」やうどんこ病耐病性の「モア」などが使
われています。

キャベツでは「新藍、青琳」などの新しい品
種が導入される一方で「YR藍宝、しずはま1

号、2号」などの古い品種が定番となっていま
す。ブロッコリーでは花蕾の揃いやしまりの良
い「ファイター、すばる、ピクセル」などが使
われています。

コマツナは栽培容易で立性の「いなむら、は
っけい」が春まきから秋まきまで多く使われて
おり、いわば標準的な品種となっています。ホ
ウレンソウでは葉肉が厚く、濃緑で立性のもの
が求められ、春まきでは「ミラージュ、クロノ
ス」、秋まきでは「ハンター、プライド」が多
い傾向です。

品種はメーカーから新しいものが次々と発売
されています。生産者は新たな品種を導入する
ときは試作を行い、品質、作りやすさ、耐病性
などを考慮した上で自身の経営に合ったものを
選択してください。「主な品種一覧」は東京で
多く栽培されているものを掲載しましたので、
品種選択の参考にさせていただきたいと思いま
す。

表 都内で栽培されている野菜の主な品種一覧

作目	作型	主要品種名	作目	作型	主要品種名
トマト	半促成	CF桃太郎ファイト、桃太郎ファイト、桃太郎なつみ、ハウス桃太郎(タ)、麗容、麗夏(サ)、彩果(ト)	ブロッコリー	夏まき	ファイター、すばる(プロ)、ピクセル、おはよう(サ)、グリーンパラソル、ハイツ(タ)
	抑制	桃太郎ヨーク、桃太郎ピース、CF桃太郎はるか(タ)、りんか409(サ)	カリフラワー	夏まき	はくすい、バロック(サ)、スノークラウン(タ)
キュウリ	普通	夏すずみ、夏ばやし、Vロード、Vアーチ(タ)、金星(と)	コマツナ	春まき	いなむら、はっけい、きよすみ(サ)、優翠、美翠(渡)、まさみ、なつき(トーホク)、菜々美(タ)
	抑制	ズバリ163、モア(と)、湧泉(タ)、フリーダム(サ)		秋まき	いなむら、はっけい、なかまち、わかみ、SC8-007(サ)、優翠、美翠(渡)、みなみ(トー)、菜々美、夏楽天(タ)
ナス	早熟 普通	千両2号、とげなし千両2号(タ)、改良千黒(武)	ホウレンソウ	春まき	ミラージュ、トリトン、クロノス(サ)、プリウス(ト)
エダマメ	早熟 普通	サヤムスメ、英音、サッピーロドリ(雪)、湯あがり娘(カ)、天ヶ峰、おつな姫、いきなまる(サ)	ネギ	秋・冬 まき	ハンター(カ)、プライド(渡)、クロノス、アグレッシブ(サ)、七之助、葉多坊(朝)
	抑制	サヤムスメ、英音(雪)、おつな姫、いきなまる(サ)		春まき	夏扇2号、夏扇パワー(サ)、ホワイトスター(タ)
スイートコーン	普通	ゴールドラッシュ、ゆめのコーン(サ)、ミエルコーンE、グラビス(雪)、おひさまコーン、キャンペラ90(タ)	ダイコン	秋まき	福誉(み)、夏つかさ、夏つかさ快(トー)、YR夏蛍(雪)、献夏37号、冬自慢(サ)
キャベツ	夏まき	YR藍宝(日)、しずはま1号、2号(石)、YR錦秋強力152(マ)、新藍、青琳(サ)、いろいろ(カ)	カブ	周年	白馬、白寿、碧寿、玉里、しろかもめ(武)、ゆぎわらし(カ)、スワン、福小町(タ)
ハクサイ	秋まき	黄ごころ65、80、85、90、晴黄75(タ)	ニンジン	夏まき	ベーター312、ベーターグロリア(サ)、愛紅(住)、向陽2号(タ)

(タ): タキイ種苗、(サ): サカタのタネ、(カ): カネコ種苗、(日): 日本農林、(ト): トキタ種苗、(武): 武蔵野種苗園、(雪): 雪印種苗、(石): 石井育種場、(マ): 増田採種場、(トー): トーホク、(渡): 渡辺農事、(プロ): プロリード、(朝): 朝日工業、(と): とぎわ研究所、(み): みかど協和種苗、(住): 住化資材

農林水産部
農業振興課
組合指導係

園芸施設共済の制度拡充

～さらに安心のネットワークへ～

平成26年2月、関東甲信地方に発生した豪雪被害によって園芸施設等に甚大な被害が発生しました。東京都農業共済組合では園芸施設共済（農業共済制度の一つ）として約460棟に対して、およそ1億4千万円の共済金を支払ったところです。しかし、「被災施設と同程度の再建を行うには今の補償額では不十分」との声がありました。それに対応するため平成27年2月1日から補償内容が拡充されましたので、お知らせします。

農業共済制度とは

農業者が受けた損失を補填して経営の安定化、生産力の維持・増大に貢献することを目的とした農業災害補償法に基づく補償制度です。農業者の相互扶助を基本とし、共済の仕組みを用いた政策保険制度であるとともに、国の農業災害対策としての基幹的制度です。そのため、掛金の約半分を国が負担します。

拡充のポイント

(1) 耐用年数、時価現有率の見直し

園芸施設共済の補償額は時価の評価額によって決定します。そのため、設置後の経過年数（耐用年数）により補償額が減少していきます。これまで、一般的なパイプハウスの耐用年数は5年でしたが、見直しにより10年に延びました。

また、耐用年数を経過した施設の評価額は、設置時の評価額の20%（時価現有率のこと）まで減少していましたが、これを50%に引き上げました（図1）。

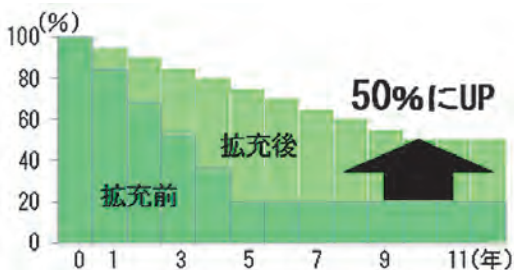


図1 年数経過による補償割合の減少

(2) 復旧費用の追加

耐用年数と時価現有率の見直しにより、長期間使用した施設であっても設置時の評価額の50%で加入できるようになりましたが、同程度の施設を再建する費用と比べるとまだ不足していました。そこで、元々の時価ベースの補償額に加え、再建に要する復旧費用の追加を選択できるようになりました（図2）。

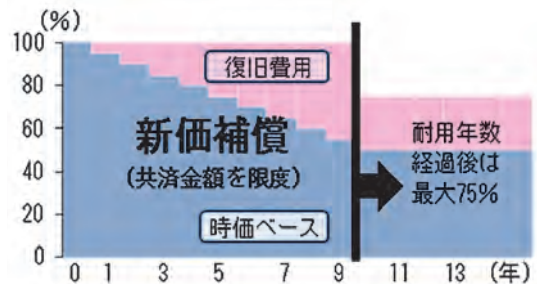


図2 復旧費用を追加した場合の補償割合

(3) 撤去費用の対象拡大

被災施設の廃材処理・撤去費用の補償は鉄骨造施設等の一部に限られていましたが、パイプハウスを含む全ての種類の施設に対し撤去費用の補償を追加で選択できるようになりました。

災害への備えは農業共済が基本

近年、異常気象による大規模の自然災害が季節を問わず各地で多発しています。平成26年の雪害では施設等の撤去・再建にかかる「被災農業者向け経営体育成支援事業」が実施されました。これは過去に例のない甚大な気象災害が発生した場合に限られます。今後は同程度の豪雪が発生した場合、甚大な気象災害として認定されない恐れがあります。

こうした点からも、自然災害等の農業被害に備え農業共済へ加入されることをお勧めします。加入等についてのお問い合わせ等は、東京都農業共済組合園芸係（Tel:042-381-7111）、その他、ご意見ご質問等は東京都農林水産部農業振興課組合指導係までお願いします。

一口メモ

「小松菜パン」が学校給食に

足立区は、「おいしい給食推進事業」により、学校給食に地場野菜を積極的に活用する取組を進めています。これを受け、JA東京スマイル足立地区青壮年部は、毎朝、新鮮なコマツナを区内の小中学校に届けるとともに、体験学習の受け入れにも貢献しています。

同青壮年部では、「区内の小中学生に、特産のコマツナをもっと食べてほしい」との考えから、コマツナの加工品を学校給食に供給するための検討を進めてきました。その結果、地元の製パン業者や加工業者、都、区、JAの連携により、足立産のコマツナを練り込んだ「小松菜パン」が誕生しました。今年6月から、区内の学校給食の献立に加わりました。初めて食べた生徒からは「コマツナがたっぷり入って栄養がありそう」など好評でした。



学校給食に出された「小松菜パン」

一口メモ

良質米生産に向けた地域の取組

八王子市高月地区は都内有数の水田地帯です。生産者は「高月営農集団」を結成し、農機具の共同利用等を行い、農地保全と水稻を中心とした農産物生産を行っています。

同地区の水稻品種は、以前は中生品種でしたが、近年では早生品種の「コシヒカリ」「キヌヒカリ」が主力となり、中生品種より出穂が約2週間早まりました。一方、中干し時期は慣行通り7月21～28日頃で、早生品種にとって最も水が必要な幼穂形成～出穂期が中干し時期と重なっていました。

そこで普及センターでは、「高月営農集団」や地域の水利組合に、中干し時期の早期化を提案してきました。その結果、平成26年より地区全体で中干し時期が前進し、平成27年は7月13～22日に行われました。地域的な取組によって栽培方法が改善され、更なる品質・収量の向上が期待されます。



中干し中の水田

お知らせ

◎10月24日(土)「東京農林水産フェア」

10:00～15:00 会場：産業サポートスクエア・TAMA

◎11月2日(月)～3日(火)「第44回東京都農業祭」 会場：明治神宮宝物殿前

●表紙写真：収穫をむかえた八王子高月地区の水田風景

◆お問い合わせは下記まで・・・

農業振興事務所中央農業改良普及センター

☎042-465-9882

農業振興事務所中央農業改良普及センター東部分室

☎03-3678-5905

農業振興事務所中央農業改良普及センター西部分室

☎03-3311-9950

農業振興事務所西多摩農業改良普及センター

☎0428-31-2374

農業振興事務所南多摩農業改良普及センター

☎042-674-5971

農業振興事務所振興課

☎042-548-5053

とうきょう普及インフォメーション95 印刷物規格表第1類
平成27年10月1日発行 登録番号(26)8

編集・発行 東京都農業振興事務所振興課
立川市錦町3-12-11

☎ 042-548-5053

FAX 042-548-4871

印刷 社会福祉法人 東京コロニー

☎ 042-394-1113

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。